

## APRU マルチハザードキャンパスセーフティーワークショップを開催しました(2020/02/12-13)

テーマ：APRU マルチハザードプログラム、防災、仙台防災枠組、Natech（自然災害起因の産業事故）  
 場所：災害科学国際研究所

2020年2月12-13日に、当研究所にて「APRU マルチハザードキャンパスセーフティーワークショップ」が開催されました。コロナウィルスの影響で10名が事前キャンセルとなりましたが、最終的に24名（15大学・組織）が参加しました。このワークショップは2016年から2年毎に開催され、今年が3回目となります。当研究所からは、今村文彦 所長（災害リスク研究部門・教授）と泉貴子 准教授（地域・都市再生研究部門）が参加しました。

今回のワークショップの目的は、自然災害のみならず、人的災害におけるキャンパスでのリスクを理解し、マルチハザードアプローチを考慮したリスクアセスメントの重要性を学び、キャンパス内での防災や災害対応について議論することでした。

グループワークでは、リスクアセスメントの実施方法やミニマムチェックリストについて議論し、前回作成したチェックリストに人的災害の要素を加えた、より包括的なチェックリストが作成されることとなりました。このリストは今後、APRU 加盟大学やその他の大学がキャンパスでの防災対策を実施する際の基準として採用されることを目的としており、APRU の総長会議やシニアリーダーズフォーラムなどの様々な機会に情報提供されることとなります。

国連防災事務所がアジア地域で推奨している防災ロードマップにも、各組織やセクターによるリスクガバナンスが強調されており、各大学もいかに災害リスクを把握し、各大学が自らそのリスク軽減や災害対応を実施することが求められています。キャンパスセーフティーの活動も、大学のリスクガバナンスに貢献する活動の一環と位置付けています。

ワークショップ後の14-15日には、ほとんどの参加者が岩手県・宮城県の被災地巡検に参加し、東日本大震災からの復興について学びました。



参加者グループフォト



グループディスカッション



講義の様子



グループ発表

文責：泉 貴子（地域・都市再生研究部門）